



立田寛之

国際ボート連盟は6月29日、東京パラリンピックの混合かじ付きフォア（運動

パラボート

機能障害・視覚障害PR3）

# 日本、混合フォア出場へ

## 札幌出身・立田 コックスに

に日本の出場が決まったと発表した。国際パラリンピック委員会（IPC）との協議の結果、招待枠で選出した。

日本ボート協会は立田寛之（埼玉・戸田中央総合病院ク、石狩翔陽高出）、八

尾陽夏（戸田中央総合病院ク）、木村由、有安諒平（以上湖猿）、西岡利拡（琵琶湖ク）の5人を代表に内定。いずれも初出場となる。

日本は6月上旬にイタリアで行われた世界最終予選で6位となり、上位2チームに与えられる出場権獲得を逃していた。

## 「仲間と集大成」

東京パラリンピック出場を決めた混合かじ付きフォアの日本チームの立田は札幌市出身で、健常者のかじ取り役「コックス（舵手）」として、コーチ兼任で障害者のこぎ手を支えた。パラリンピックは今回が初めて最後といい、「大舞台で仲間と集大成を飾りたい」と誓う。

手足や視覚に障害がある男女4人がこぎ手を務め、直線2千メートルを競う種目。コックスは、かじの操作に加え、息を合わせオールをこげるように掛け声を出す役割もあり、健常者も出場できる。

立田は石狩翔陽高でボー

トを始め、コックスとして日大と現在所属する社会人クラブでは全日本選手権や国体を制覇。男子エイトで東京五輪を目指したが、かなわなかった。パラチームのコックス募集を知り、2018年秋に一員になった。

昨秋に競技に専念するため広告代理店を退社。貯金を取り崩しながらチーム強

化に当たり、競技を続けた。「パラを自分の成長の手段と考えていたが、障害に向き合い、力強く生きるこぎ手と出会い、純粋に大会を目指したいと思った」

出場12カ国中、日本は記録が最も遅いが、「ベストを尽くし、コロナ禍でも明るいニュースを届けたい」と決意する。

（野口洸）

2021年（令和3年）07月01日（木曜日） 北海道新聞 朝刊 全道遅版 スポーツ 23ページ